**投稿原稿の論題**

**－サブタイトルをつけてもよいですが、合計2行以内で－**

公益　太郎（公益事業大学公益経済学部教授）

電力あかり（公益研究所主任研究員）

要旨　日本語論文なら400～500字程度で入力してください。英語論文では100 words程度です。

Ⅰ．はじめに

用紙はA4サイズです。研究論文・現況論文・研究ノートは組み上げ（刷り上がり）10ページ（18,000字）以内が原則です。

このフォーマットは、本文が『公益事業研究』本誌と同じレイアウト（42字×41行）になるように、10.5ポイントで設定してありますので、原稿執筆の際に目安としてください。ただし刷り上がりでは、本文二段組み（21字×41行×2段）になります（原稿執筆時点では、フォーマットが二段組みだと執筆がしにくい点もあると考え、一段組みにしてあります。審査を経て出版社で組版をする際に二段組みになり、著者校正の際に刷り上がりのレイアウトをご確認いただきます）。

Ⅱ．節と項の表記

節については、上にあるようにゴシック体のローマ数字（時計文字）を用いるのが従来一般的でしたので、それに従ってください。「はじめに」「おわりに」にも節の番号を打つ体裁で統一します（「Ⅰ．はじめに」から始まって、例えば「Ⅵ．おわりに」になります）。

(1) 項の表記

節をいくつかに分ける「項」については、上にあるようにゴシック体で、アラビア数字を( )で囲うのが従来一般的でしたので、それに従ってください。

Ⅲ．文献の引用

以下のような形式で示すことが推奨されます。ただし公益事業学会は学際的な学会であり、投稿者の方の専門分野によって文献の引用のしかたや参考文献の示し方が異なる場合もありますので、あくまでも参考としてください。

買い物弱者、つまり「流通機能や交通網の弱体化とともに、食料品等の日常の買い物が困難な状況に置かれている人々」（経済産業省 2010、p. 32）は、日本全国で約600万人にも上ると試算されている（経済産業省 2010、p. 32）。

公共交通の採算性低下や衰退と似た現象が、中小商店やその機能に関しても起こるのが買物弱者問題であろう（髙橋 2012；髙橋ほか 2012）。

Ⅳ．図および表について

図・表とも、タイトルはゴシック体とします。図のタイトルは図の下、表のタイトルは表の上に付けてください。図と表でそれぞれ別個に通し番号を打ってください。図と表は、以下のように本文中にはおおよその挿入位置を示し、ExcelやPowerPointなどオリジナルデータ、画像の場合は解像度 600dpi 以上のデータのファイルならびに、それをPDFに変換したファイルを、本文のファイル（およびそれをPDFに変換したファイル）と合わせて提出してください（掲載決定後、組版の際に本文中に組み込まれますので、著者校正の際に確認していただきます）。また、図・表とも、下に左詰めで出典を示してください（筆者作成の場合もその旨明記してください）。注を付ける場合も左詰めとしてください。

図1　この近辺に

図1　買い物弱者対策の諸類型

出典：髙橋(2012)p. 19を一部修正。

表1　移動販売の価値の上昇に関するプロビットモデルの推計結果

表1　この近辺に

注：\*\*\*、\*\*、\*はそれぞれ1％、5％、10％水準で有意であることを示す。

出典：筆者作成。

いずれにしても、『公益事業研究』は白黒印刷が基本となりますので、図表の配色や網掛けが白黒で見やすいように、作成・投稿時から配慮してください。査読時に改善を求められることも少なくありませんのでご注意ください。

Ⅴ．注および参考文献の扱い

注は文末中とし、参考文献の前にまとめて掲載します[[1]](#endnote-2)。

なお、執筆者の所属・職名も、組版の際には執筆者名に「\*」で注が付いて、1ページ目の最下段に表示されるようになります。『公益事業研究』の近年のバックナンバーをご参照ください。

Ⅵ．おわりに

　『公益事業研究』は、組版等の編集作業を出版社が行うことで、体裁が整うところに大きな特徴があります（他の学会では、写真製版、いわゆる「カメラレディ」での原稿提出が求められ、体裁がより細かく指示され、投稿者が自ら詳細に設定をする場合もあります）。とはいえ、編集作業の効率性と速度を高め、編集・発行プロセスをより迅速なものとするためには、投稿の際にこのフォーマットをご活用いただくのが何よりであると、編集委員一同考えております。投稿者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

**＜追記＞**

　本文と注の間の「追記」は、科研費等の研究助成の成果であることを明記したり、学会発表の際の討論者や原稿投稿の際の査読者等に謝辞を述べたりするために活用していただけます。ただし、投稿の最初の段階であまり詳細に書くと、査読の際の匿名性が損なわれる恐れがあります。掲載が決まり組版を経て著者校正の際に、追記に加筆・修正する機会があります。投稿原稿に関して匿名性の維持が難しい場合、査読の前に編集委員会で追記の内容を編集することがありますので、お含みおきください。

**［参考文献］**

※以下のような形式で示すことが推奨されます（文字サイズは9ポイントとしています）。ただし公益事業学会は学際的な学会であり、投稿者の方の専門分野によって参考文献の示し方が異なる場合もありますので、あくまでも参考としてください。なお、いずれの文献も2行目以降は、最初が全角1文字分空きます。

※発行年は半角パーレンで括ることを原則とします。

※欧米語文献の場合（英数部分のフォントはTimes New Romanを使用）

Sakai, H. and Y. Takahashi (2013) “Ten Years after Bus Deregulation in Japan,” *Research in Transportation Economics,*

Vol.39, Issue 1.

※欧米語文献で日本語版がある場合

Shy, O. (2001) *The Economics of Network Industries,* Cambridge University Press.（吉田和男監訳『ネットワーク産業の

経済学』シュプリンガー・フェアラーク東京、2003年。）

※訳者・監訳者の前に「＝」を付ける必要はありません。

※日本語論文

青木亮(2004)「第3セクター鉄道にみる利用可能性と支払意思額の関係」『公益事業研究』第55巻第3号。

髙橋愛典(2012)「買い物弱者対策の諸類型」日本交通政策研究会『社会参加を促すための地方部公共交通政策』（日

交研シリーズA-431）第4章。

髙橋愛典・竹田育広・大内秀二郎(2012)「移動販売事業を捉える二つの視点」『商経学叢』第57巻第3号。

※日本語書籍

依田高典(2001)『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社。

経済産業省(2010)『地域生活インフラを支える流通のあり方研究会報告書』。

南部鶴彦・伊藤成康・木全紀元編(1994)『ネットワーク産業の展望』日本評論社。

※「編」や「編著」の前後に( )は不要です。

※日本語書籍の1つの章

佐々木弘(2001)「公企業と公的サービスの供給方法の多様化」増地昭夫・佐々木弘編著『最新・現代企業論』第7

章、八千代出版。

英文要旨

**Title:**

**Subtitle**

TARO KOEKI

Professor, School of Public Utility Economics, Koeki University

AKARI DENRYOKU

 Chief researcher, Research Institute for Public Utilities

Please write the English abstract in about 100 words. 論文本文が英文であれば、ここでは400字程度の日本語で要旨を作成してください。この場合、上記の”Title”等々も日本語になります。

原稿作成ソフト：Wordなどと明記してください

eメール・アドレス：（第一筆者あるいはcorresponding authorのアドレスを明記してください。各種の連絡はこのアドレスに対して送信いたします。）

校正原稿送付先：（第一筆者あるいはcorresponding authorの郵便番号、所在地住所、建物名・所属等、氏名を明記してください。）

電話番号：（第一筆者あるいはcorresponding authorの携帯電話番号等を明記してください。校正原稿をレターパックや宅配便で送付する際に記入が必要になります。）

投稿者の生年月（西暦表記）：学会奨励賞の候補資格を確認する際に利用します。

公益　太郎：19XX年○○月生まれ

電力あかり：19YY年○○月生まれ

1. このフォーマットでは、ここ（参考文献の前にセクション区切りを入れて、文末注がセクション区切りの手前に掲載されるようにしています）に注が来るように設定してあります。本文中で注番号をコピーアンドペースとすれば、注を増やせます。 [↑](#endnote-ref-2)